

# “幸せ”って何だろう？

所属	愛知県 津島市立藤浪中学校	実践者	山田 浩子 (L)
対象	中学1・2年生	時間数	5時間
場所	教室	実践教科	社会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの文化を知り、自分たちとは異なる国をありのままに受け止められるようになる。</li> <li>・自分の生活や日本の豊かさに気づき、周りの人や日常を大切にすることができるようになる。</li> <li>・幸せとは何かを考え、自分なりの意見をもつことができる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<b>【ラオスってどんな国？】</b> ・ラオスクイズ ・ラオスの“びっくり”を知る。〈フォトランゲージ〉 ・ラオスの写真を見て、どんな暮らしをしているか想像する。 〈なりきり自己紹介〉	パワーポイント
	2	<b>【センサー始動！君はラオスのSOSをキャッチできるか？】</b> ・1枚の写真から、ラオスの「ここがいいね！」と思うところと「ここが問題じゃない？」と思うところを見つける。 ・ラオスの課題から「貧困」を取り上げ、貧しいと何が困るのか考える。 〈派生図〉 ・貧困の連鎖を考える。	B紙 貧困の連鎖カード
	3	<b>【君が動く ラオスが変わる】</b> ・資料を読んで、ラオスが抱えている課題を知る。 ・ラオスの貧困の連鎖を断ち切るために、自分なら何ができるか考え、発表する。	
	4	<b>【あなたは今、幸せ？】</b> ・「自分が幸せだな」と感じる時を付箋に書いて、班の中で共通する項目ごとに分類する。〈KJ法〉 ・“私たちの幸せ5か条”をつくり、発表する。〈指標づくり〉	付箋、B紙 ブータンの国民総幸福量(GNH)の指標を紹介
	5	<b>【幸せって何だろう？】</b> ・資料を読んで、日本が抱えている課題を知る。 ・ラオス人と日本人の大切にしているもの、将来の夢などを紹介する。 ・幸せとは何か、自分なりの考えをまとめる。	パワーポイント 現地でのアンケート 事前アンケート
成果	様々なアクティビティを通して、ラオスの課題や世界の現状などを実感を伴って学習することができた。その結果、“幸せとは何か”というこれまであまり考えたことのなかったテーマにも真剣に取り組む姿が見られ、外国を通して自分を見つめなおすいいきっかけとなった。		
課題	アクティビティに慣れていなかったため、一つ一つの作業に時間がかかってしまい、班で話し合う時間が十分に取れなかった。		
備考	参考図書：『日本がもし100人の村だったら』（池上彰 著、協力・池田理代子、マガジンハウス）		

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目「ラオスってどんな国？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① ラオスクイズ…スライドやクイズから、ラオスの街の様子や人々のくらしの様子を知る。
- ② ラオスの“びっくり”を知ろう…写真の隠された部分に何があるか想像し、ラオスの衣食住や生活について知る。
- ③ なりきり自己紹介…写真を見てラオスのくらしを想像し、ラオス人になりきって自己紹介をする。

#### この時限のねらい

- ・ スライドやクイズを通して、衣食住などラオスの国の様子や文化を知り、興味・関心をもつことができる。
- ・ 写真からラオス人のくらしを具体的に想像することができる。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ラオスという国に対するイメージを抱くことさえあまりできない生徒がほとんどだったが、スライドやクイズにかなりの興味を示していた。特に、日本のアニメキャラクターや日本製の車が売られている写真を見て、「どこか知らない国」から「日本とつながりのある国」と一気に親近感が増したようだった。
- ◇ 限られた情報で「なりきり自己紹介」をするのは、なかなか難しかった。しかし、「僕は15歳。僕の家は大家族で、仲良く暮らしているよ。普段は畑で野菜を作っているけど、料理が得意だからみんなのご飯を作るのは僕の仕事なんだ。ごはんはみんなで揃って食べるんだよ。」などかなり具体的に書いており、授業者がラオスの様子を一方的に伝えるよりもとても効果があったと感じた。

#### 3 使用した教材

<教材1>ラオスクイズ(右写真)

<教材2>ラオスの“びっくり”を知ろう(左下写真)

<教材3>なりきり自己紹介(右下写真)



## 2 「センサー始動！君はラオスのSOSをキャッチできるか？」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「今まで行った中で一番遠いところ」…自分がこれまで行った中で一番遠いところをテーマにして自己紹介をする。
- ② ラオスの「ここがいいね！」「ここが問題じゃない？」…写真から、「ここがいいね！」と思うところと「ここが問題じゃない？」と思うところを班ごとに見つけて、発表する。
- ③ 貧しいと何が困るのか…ラオスの課題から「貧困」を取り上げ、貧しいと何が困るのか、班ごとに派生図を書く。
- ④ 貧困とラオス…「貧困」の定義やラオスが発展途上国の中でも低開発途上国に位置づけられていることを知る。
- ⑤ 貧困の連鎖…世界の課題が書かれた8枚のカードを使って、それらの課題がどのように連鎖しているのか考える。

#### この時限のねらい

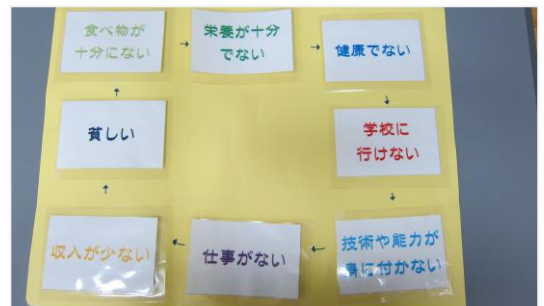
- ・ ラオスのよいところ・課題の両面を見つけることができる。
- ・ 貧困からさまざまな課題が生まれ、それらが負の連鎖となつてつながり合っていることに気づくことができる。



成果1:「貧しいと何が困るのか」の派生図

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「ここがいいね！」は、「みんな笑顔」「元気」「楽しそう」「年齢に関係なく仲がいい」「緑が豊か」などの意見が出た。「ここが問題じゃない？」は、「水が汚い」「ゴミがちゃんと捨てられていない」「靴をはいていない子がいる」などの意見が出て、ラオスの現状をよいところ・課題の両面から捉えることができた。



成果2:「貧困の連鎖」

- ◇ 派生図を書きながら、「貧しい」から派生したさまざまな状況が最終的に「死ぬ」につながっていくことに気づいて生徒たちはとても衝撃を受け、「貧しい」ことの重大さを実感していた。

### 3 使用した教材

<教材4>ラオスの「ここがいいね！」「ここが問題じゃない？」(右下写真)

<教材5>貧困の連鎖カード(左下写真)





### 3 時限目「君が動く ラオスが変わる」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 資料から知るラオス…ラオスの教育や医療について、1人ずつ異なる内容が書かれた資料を読んで、要約する。その後発表をして、ラオスが抱える課題を共有する。
- ② 貧困の連鎖を断ち切るために…班ごとに「日本の中学生」「日本の大企業の社長」「ラオスの国家主席」の立場に分かれ、その立場で貧困の連鎖を断ち切るために何ができるか考え、発表する。

#### この時限のねらい

- ・ ラオスの抱える課題を知る。
- ・ 貧困の解決のために自分なら何ができるか考え、意見を発表することができる。

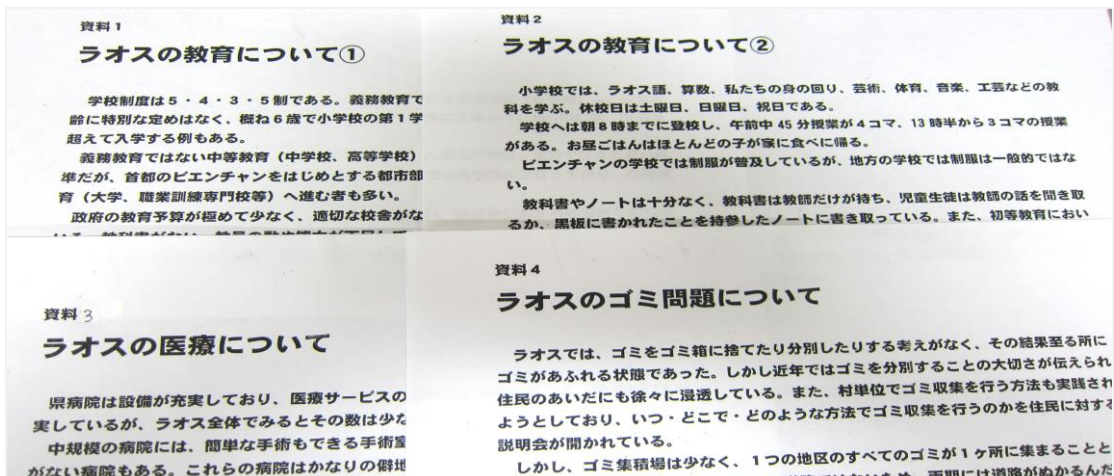
#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前時に貧困の連鎖を学習していたため、「そのどこかを断ち切れれば、連鎖から抜け出せる可能性がある」と伝えると、自分のどのような働きかけでラオスが貧困から抜け出せるか、考えを深めることができた。
- ◇ 「貧困の連鎖を断ち切るために」では、次のような意見が出た。

立 場	意 見
日本の中学生として何ができるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募金をする。</li> <li>・市役所に募金をはたらきかける。</li> <li>・ラオスの将来を考えて、今勉強する。</li> <li>・エコキャップを集める。</li> <li>・支援物資を送る。</li> </ul>
もしも私が日本の大企業の社長だったら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内で募金活動をする。</li> <li>・会社でラオスに役立ちそうなものをつくる。</li> <li>・ラオスに会社をつくってラオス人を雇って、技術を教える。</li> <li>・日本の教科書をラオス語に翻訳して送る。</li> <li>・ラオスに病院を建てる。</li> <li>・医療機関を増やす。</li> </ul>
もしも私がラオスの国家主席だったら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府の教育予算を増やす。</li> <li>・貧しい子どもでも学校に通わせる。</li> <li>・読み書きできない人に仕事を与える。</li> <li>・病院を建てて、ちゃんとした医師を雇う。</li> <li>・先進国の技術者を呼ぶ。</li> </ul>

#### 3 使用した教材

<教材6>ラオスについての資料



## 1 子どもの活動の流れ

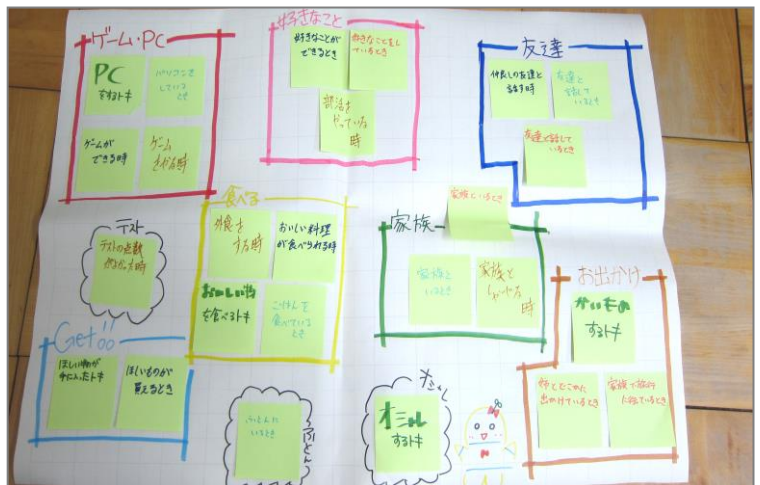
- ① わたしの幸せ・あなたの幸せ・・・「自分が幸せだな」と感じる  
ときを付箋に書いて、班の中で共通するキーワードを考えな  
がら、分類する。
- ② “私たちの幸せ5か条”をつくろう・・・自分たちが幸せに生き  
ていくためにはどんなことが必要か、5つにまとめる。
- ③ ブータンの幸せ・・・ブータンでは国が裕福になることよりも国  
民の幸福度が高まることを大切に考えており、9つの指標  
(環境、コミュニティ、生活水準、健康、文化、教育、時間の使い方、心理的幸福、良い統治)で国民総  
幸福量(GNH)をはかっていることを知る。

## この時限のねらい

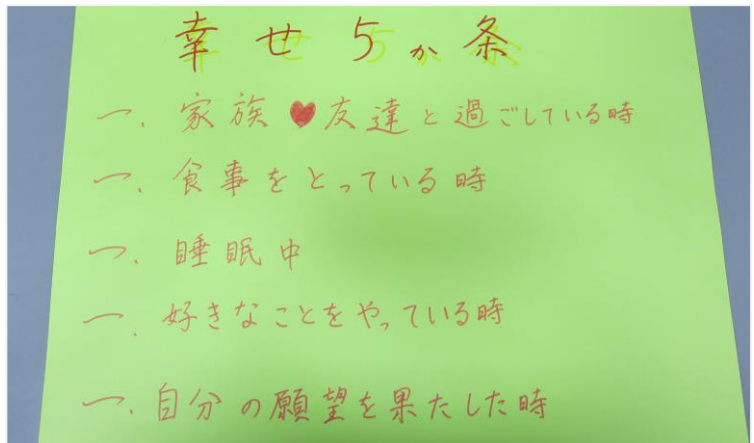
- ・ いろいろな幸せのかたちがあ  
ることに気づくことができる。
- ・ 自分たちが幸せに生きるため  
には何が大切かを考え、意見を  
まとめることができる。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「最近、幸せって感じたっけ」「難しくて書けないよ」と口々に言っていたが、書き始めると「家族といると  
き」「スイーツを食べているとき」「ゴロゴロしているとき」など、たくさん書き出していた。
- ◇ キーワードごとに分類して貼っていく  
ことで、他の生徒も自分と同じようなこ  
とに幸せを感じる部分と、自分とは違う  
ことで幸せを感じる部分があるのだと  
いうことに気がつくことができた。
- ◇ 「幸せって特別なことじゃなくて、家族  
と一緒にご飯を食べたり、友だちとしゃ  
べったり、普段当たり前になっているこ  
となんじゃないかと思いました。」「今を  
一生懸命生きることが、幸せなことな  
んだと思いました。」など、幸せが自分  
たちの日常生活のあちこちにあること  
に気づき、それを大切にしようとする  
姿勢がみられた。



成果3:「わたしの幸せ・あなたの幸せ」



成果4:「私たちの幸せ5か条」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① データから知る日本・・・日本の教育や農業などについて、1人ずつ異なる内容が書かれた統計資料を読み、そこから理解した内容を発表して日本が抱える課題を共有する。
- ② 大切なものは何ですか・・・授業者がラオスでインタビューして聞いた「ラオス人にとっての大切なもの・将来の夢」をスライドで知る。
- ③ “幸せ”って何だろう？・・・これまでの授業を振り返り、さまざまな国で暮らす人々が、みんな幸せになるにはどうしたらいいか考える。

#### この時限のねらい

- ・ 日本の抱える課題を知る。
- ・ 日本とラオスの現状を知り、自分にとっての“幸せ”とは何か、世界中の人たちの“幸せ”とは何か、考えをまとめることができる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

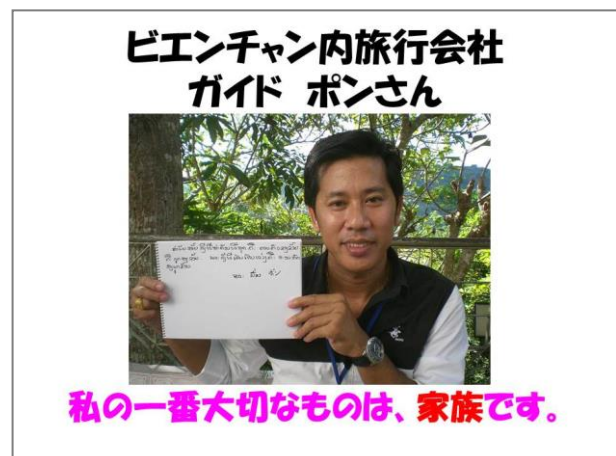
- ◇ 日本にも貧困で苦しんでいる人々がいるなど課題があることを知って、日本とラオスのどちらの人が幸せなのかという疑問をもち、深く考えるようになった。
- ◇ 「これまで貧乏な暮らしってやだなあと思ったり、ちょっとバカにしていたかもしれませんが、でもどこの国にも笑顔があることに気がつきました。それに、みんな自分の大切なものを心に決めていました。見た目には差があるように見えるかもしれないけど、世界の国々に差なんてないんじゃないかと思います。」と、どこの国に生まれても「幸せになりたい」という願いをもっているのは同じではないかという気づきが見られた。
- ◇ 難しい問いであったが、「幸せ」について真剣に考え、自分やまわりの人、日常を見つめ直して意見を書いていた。「幸せについて考えたこともなかった」という生徒も多く、これまでを振り返るだけでなく、「世界の現状を変えるために、今の私は勉強する」など、これからの生き方を考えていくよききっかけになった。

### 3 使用した教材

<教材7> 日本についての統計資料



<教材8> 大切なものは何ですか

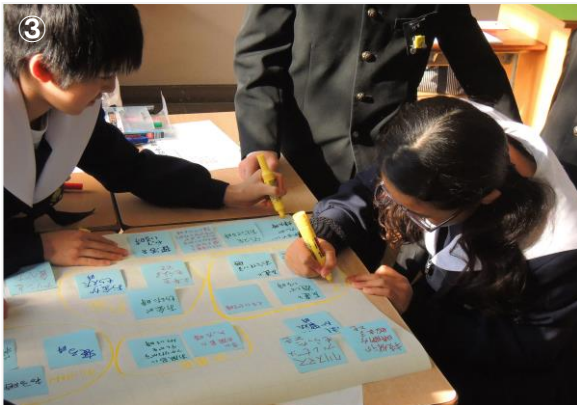
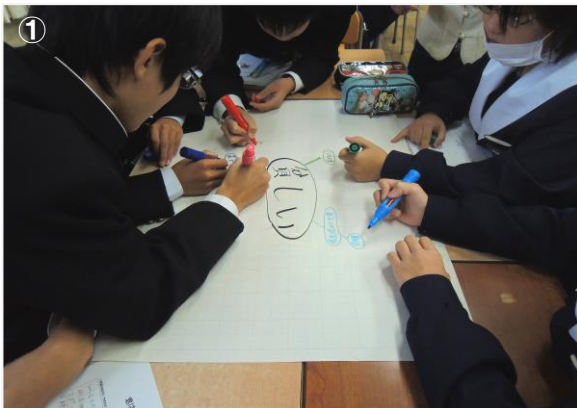




## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

- <写真①>「貧しいとなにが困るのか」派生図を書く様子
- <写真②>「貧困の連鎖」がどうつながるのか考える様子
- <写真③>「幸せだなと感じるとき」を分類して貼っていく様子
- <写真④>“私たちの幸せ5か条”発表の様子



### 2 参考文献・資料

- 1) (公財)愛知国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来』2013年 (教材5)
- 2) 池上彰、協力・池田理代子『日本がもし100人の村だったら』2009年、マガジンハウス (教材7)

以上